

令和 6 年度 学校評価シート

学校名： 和歌山県立向陽中学校 校長名： 松本 泰幸

目指す学校像・育てたい生徒像

- ・未来を切り開くリーダーとしての資質や能力を身につけた生徒
- ・課題を発見、探求し、主体的に判断し、行動できる資質や能力を身につけた生徒
- ・理数の確かな学力と幅広いコミュニケーション能力を身につけた生徒

学校評価の公表方法

ホームページへの掲載
P T A 役員会等での説明
学校運営協議会での説明・協議

現状・進捗度

A	十分に達成している。	(80%以上)
B	概ね達成している。	(60%以上)
C	あまり十分でない。	(40%以上)
D	不十分である。	(40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組			評価（ 3月24日現在）			
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	教員が授業研究や教材研究等を積極的に行い、生徒の主体的な学習を促す指導を行う。	B	思考力や表現力等を育む授業研究を推進するため年2回実施	教科を超えた指導案検討会の年4回以上の実施	A	計5回実施でき、充実した検討会となった。	来年度は、リーディングDXスクールの指定を受ける予定もあり、ICTを活用した授業を深めていく。
			生徒一人ひとりの学力や習熟の程度に応じた指導形態や指導方法の工夫・改善	学校評価の「教材や教え方の工夫」等関連項目35P以上	B	30Pであったが、「そう思う」「どちらかというと思う」と207名が回答しており、授業の工夫は一定うかがえる。	
			ICTを活用した思考力向上を目標とした指導展開	研究授業においてICT（1人1台PC）の活用による思考力の育成を提案	B	研究授業において、一場面で使用したものの、深い学びに至らなかった。更に研究を深めていく。	
2	生徒の健全な成長と生活習慣の確立のため、教員の指導体制を整えとともに生徒を支援する。	C	連絡帳に毎日担任がコメントし、声かけによる生徒の情報収集と教員間の情報交換	学校評価の「教師との相談」項目35P以上	B	27Pであったが、「そう思う」「どちらかというと思う」と198名が回答しており、信頼関係は一定構築されている。	生徒からの信頼に応え相談活動できるよう、改善に努める。
			生徒の生活習慣や心と体の健康について、適切な指導の実施	情報モラル講座や健康に関わる授業を2回開催する	A	外部の講師を招いて、2回実施できた。	
			SC、SSW、養護教諭等の密なる連携、教育相談部会の充実	教育相談部会の年6回以上の開催	A	今年度は、SC、SSW、支援員の方と密に連携できた。	
3	学級経営の充実を図り、生徒相互の望ましい人間関係を育てる中で、リーダーを育成する。	B	集団として協力し、達成感を味わえる学校・学年行事の充実	学校評価の「行事の充実」項目35P以上	A	36Pの結果となり、生徒も行事において充実感・達成感を持つことができた。	生徒自身の成長が認識できるよう、行事等について丁寧に計画、指導していく。
			誰もが活躍できる場の設定とお互いを認め合う心の醸成	学校評価の「生徒の自主性の尊重」項目35P以上	B	結果は28Pであるが、お互いを認め合う風土は醸成しつつある。	
			実行委員会を各行事で組織し、リーダー性を育む	各学年において、2回以上実行委員会を組織する	A	各行事において、実行委員会を組織し、リーダー性を養った。	
4	6年間を見通した中高一貫教育課程が全職員のもとで展開し、本校全体の活性化に繋げる。	B	各分掌において、共通認識を図るための体制面での一層の工夫改善	各分掌の会議を年3回以上行い、教育内容・方法等の点検と改善を図る	A	各分掌で3回以上会議を行い、改善を図ることができた。	高校との授業連携が深めつつあるため、更に交流機会を増やしていく。
			各教科指導における6年間を見通した中高間の相互理解の一層の推進	各教科の研究授業の中高相互参観と、研究協議への参加	A	中高互いの授業を参観し合う機会が増え、相互理解が深まっている。	
			特別活動において、生徒会等の中高合同企画の実施	中高の生徒が協働する合同企画の年1回以上の実施	A	文化祭等で中高の生徒が協働することがあったが更に充実した活動にしたい。	

学校関係者評価
(2月14日実施)

- ・学校運営協議会において、学校評価シートをもとに協議し、全体的に教育活動に高い評価をいただいた。
(以下委員の評価)
- ・学校評価では17Pを基準として、下回る項目について課題として検討していくこととなるが、教員の意識が高いからこそ、厳しい評価になるものもある。しかし、そこに改善の余地がある。
- ・週例テスト等の業務改善について、学校評価の項目から、「指導方法の工夫改善がなされている」のポイントが高いことから、より良い方向に変えることができている。
- ・外部のアンケートについて、本部役員のみの実施になっている。データの抽出方法についても、検討が必要である。

↓

- ・外部からの評価は、一定高いものであった。これに甘んじることなく、生徒の能力や技術を高められるよう、改善していく。また、職員の学校評価の結果から、高い項目については更に向上させ、低い項目については改善を継続していき、教育活動に、生徒と共に精進したい。